

地域連携を踏まえた学校間教育交流のあり方について

A Study on a School Exchange with the Education for Regional Collaboration

○市坪 誠^{※1} 山口 隆司^{※1} 堀口 至^{※1} 山岡 俊一^{※1} 松野 一成^{※1} 宇根 俊範^{※1}
Makoto ICHITSUBO Takashi YAMAGUCHI Itaru HORIGUCHI Shunichi YAMAOKA Kazunari MATSUNO and
Toshinori UNE

キーワード：地域連携，地域貢献，学校間交流，工学教育，科学教育

Keywords: Regional Collaboration, Regional Contribution, School Exchange, Engineering Education, Science School

1. はじめに

広島県呉市は、明治22年の海軍鎮守府の開庁を機に戦艦「大和」を建造した東洋一の軍港として繁栄し、戦後も港湾都市として世界一のタンカーを建造するなどモノづくりの地域である。本校の位置する広島県呉市阿賀地区は、500m四方に7校が立地する文教地区である（図1）。従来、個々の教育理念および教育課程からそれぞれ独自に活動を行い、この地理的特徴や階層の関係が十分に活用されてこなかった。近年、地域に立脚した学校教育と学生教育とがより一層求められており、地域社会との連携をととした教育実践が求められている。これに伴って、本校では公開講座およびテクノセミナーなど科学技術系教育ソフトの提供をととして地域連携および地域開放が進みつつある。しかし、本校学生の9割強（830名以上）は阿賀地域周辺以外の出身者であり、地域と連携する、地域に貢献するといった能力の育成は、本校のみの閉じた空間では限界がある。このような認識のもと、学校周辺阿賀地区の学校および住民との連携による科学技術系教育の実施、さらに将来地域社会を担うエンジニアの育成を行う、地域連携を踏まえた教育改善プログラムが必要であると考えていた。

そこで本研究では、地域の要望に応えるべく、隣接する3校（阿賀小学校、阿賀中学校、市立呉高等学校）においてアンケートを実施し、その要望をとりまとめるとともに、本校の特色である工学教育、ものづくり教育を生かした学校間教育連携について考察を行った。

2. 方法

隣接する3校の教職員を対象にアンケートを実施した。1. IT教育について（1-1. コンピュータ・リテラシーは必要ですか。1-2. インターネットを用いた教育は必要ですか。1-3. パソコンを用いて情報を整理・分析する教育は必要ですか。1-4. パソコンを

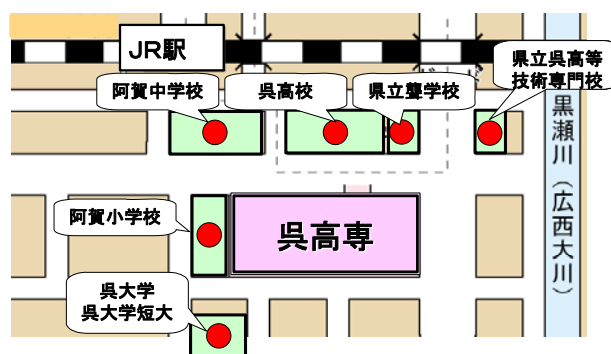


図1 呉市阿賀地区

用いて発表・意見交換できる教育は必要ですか。1-5. パソコンを用いた語学教育は必要ですか。），2. モノづくりについて（2-1. 担当する生徒の職業意識形成は必要ですか。2-2. 外部からのモノづくりの教育支援は必要ですか。2-3. モノづくりの学習メニューの開発は必要ですか。2-4. 産学連携教育は必要ですか。），3. 連携教育について（3-1. 地域住民との地域連携は必要ですか。3-2. 他校との連携教育は必要ですか。3-3. 体験学習を通じた地域連携は必要ですか。3-4. 部活動指導など他校学生の派遣は必要ですか。3-5. 学習指導の改善充実など他校教職員間との連携は必要ですか。3-6. 生徒指導上の地域連携は必要ですか。）の計15問において、それぞれ5段階（かなり必要、やや必要、どちらともいえない、あまり必要でない、まったく必要でない）のSD形式で質問を行った。阿賀小学校から29名分、阿賀中学校から23名分、市立呉高等学校から26名分の回収を行うとともに（回収率90%以上）、かなり必要とやや必要とを併せた「必要である」について検討を行った。

3. 結果および考察

3. 1 阿賀小学校からの要望について
阿賀小学校からのアンケート結果を図2にまとめた。IT教育について、1-1～4において、必要である

^{※1} 呉工業高等専門学校

が過半数を超えており、コンピュータ・リテラシーを踏まえたIT教育の必要性がもとめられた。

モノづくりについて、2-1～2において、必要であるが過半数を超えており、児童の職業意識形成やモノづくりの外部支援の必要性がもとめられた。

連携教育について、3-1～6全てにおいて、必要であるが総じて70%を超えており、地域連携や学校間連携（部活，教員間，生徒指導）の高い必要性がもとめられた。

3. 2 阿賀中学校からの要望について

阿賀中学校からのアンケート結果を図3にまとめた。

IT教育について、1-1～4において、必要であるが70%を超えており、コンピュータ・リテラシーを踏まえたIT教育の必要性がもとめられた。

モノづくりについて、2-1～2において、必要であるが過半数を超えており、生徒の職業意識形成やモノづくりの外部支援の必要性がもとめられた。

連携教育について、3-1，3-3，3-5と6において、必要であるが70%を超えており、地域連携や教員間連携，生徒指導連携の必要性がもとめられた。

3. 3 呉高等学校からの要望について

呉高等学校からのアンケート結果を図4にまとめた。

IT教育について、1-1～5全てにおいて、必要であるが過半数を超えており、コンピュータ・リテラシーや英語のIT教育の必要性がもとめられた。

モノづくりについて、2-1～4全てにおいて、必要であるが過半数を超えており、生徒の職業意識形成やモノづくりの外部支援，メニュー開発の必要性がもとめられた。

連携教育について、3-1～6全てにおいて、必要であるが総じて60%を超えており、地域連携や学校間連携（部活，教員間，生徒指導）の高い必要性がもとめられた。

以上の結果，各学校によって若干要望が異なるものの，IT教育，モノづくりおよび連携教育それぞれに

において，地域学校間の教育交流の要求が把握された。今後は，本校全体の取組として教育交流を実施する必要がある。その具体的事例として，1. 小学校に対するIT教育支援，2. 中学生に対する科学教育支援，3. 高校生に対する就職活動支援，4. 小学生または中学生に対する地域学習支援，5. 中学生または高校生に対する地域交流支援，6. 地域住民に対する科学力・地域力の向上支援，7. 小・中学生への好奇心の育成など，本校の特色である工学教育，ものづくり教育を踏まえた学校間教育交流があげられた。

4. おわりに

本研究により，得られた結果をまとめると以下のようになる。

- 1) IT教育について，3校ともにコンピュータ・リテラシーを踏まえたIT教育を必要とした。
- 2) ものづくりについて，3校ともに生徒の職業意識形成やモノづくりの外部支援を必要とした。特に，高校ではメニュー開発も併せて必要とした。
- 3) 連携教育について，3校ともに部活，教員間，生徒指導を必要とした。

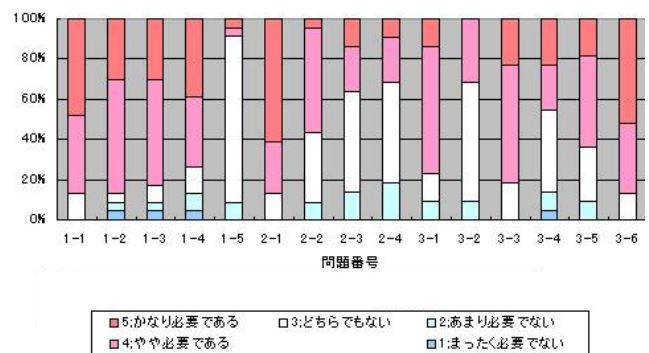


図3 阿賀中学校からの要望

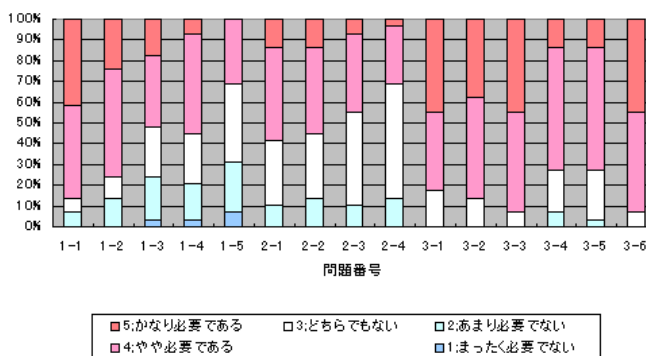


図2 阿賀小学校からの要望

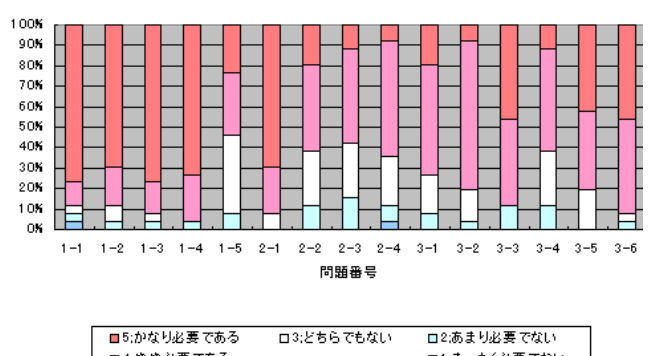


図4 呉高等学校からの要望